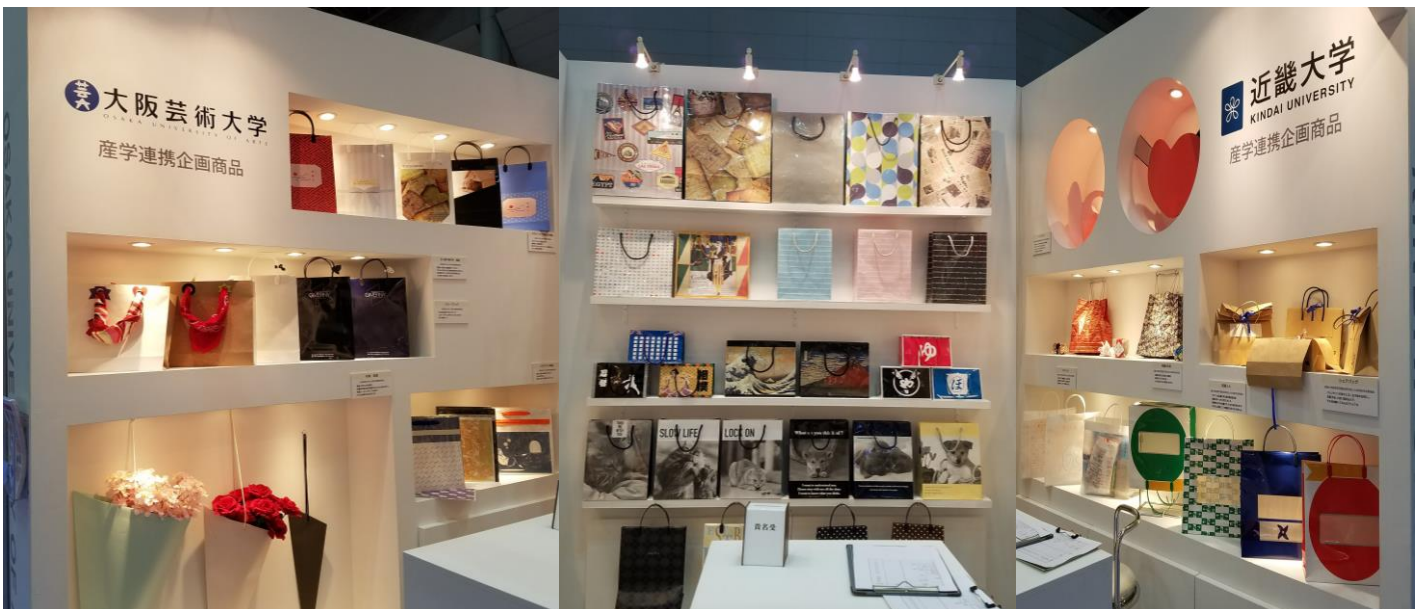


マツシロ株式会社

2017年度 環境活動レポート

認証・登録番号 0001034

(対象期間：2017年6月1日～2018年5月31日)



第85回東京国際ギフト・ショー (2018春)

作成日：2018年8月10日

更新日： 年 月 日

この紙は端紙を使用しています

■ごあいさつ

今年は大阪北部の地震、中四国の大雨など災害はどこで起こるか分からないということを身近に感じた年でした。夏の暑さも35度を大幅に超える猛暑日が続き、東から西に向かう台風など今までとは違う異常な気象現象が起きています。私たちはそういう状況に対応するための心構えと生活を再度考えるべきだと感じます。エコアクション21を通じて再度環境について考え、防災に関しての商品開発を考えていきたいと思ひます。

2018年8月
代表取締役社長 松城幹夫

環境方針

当社は、紙袋の製造販売メーカーとして、丈夫で何度でも使用していただける、高品質の商品を製造することに力を入れ約半世紀が経過しました。とは云え、残念ながら紙袋は最終的にはごみになってしまう商品です。そのため、当社は以前から常々環境を意識してまいりました。

当社経営方針の中に、「環境を意識して、地域社会に信頼され、社会に貢献する会社になります」という項目があります。この方針を追求する為、全社一丸となって積極的に、自主的に環境経営システムを構築・運用し、保全活動を追及していきます。当社の事業活動における環境負荷の低減、地域社会および地球環境の改善を行うために行動指針を制定します。

• 行動指針

1. 地球温暖化緩和のための省エネルギー
2. 資源の有効利用
3. 廃棄物の削減
4. 有害化学物質の使用禁止
5. グリーン調達並びに環境にやさしい商品生産と企画及び販売

以上について、環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

- 環境関連規制及び当社が約束した事柄を順守します。
- 環境への取り組みを環境活動レポートとして公表します。

制定日：2005年10月21日

改定日：2014年6月24日

代表取締役社長 松城 幹夫

■組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
 マツシロ株式会社
 代表取締役社長 松城 幹夫
- (2) 所在地
 本社/工場：大阪府東大阪市角田1丁目10番8号
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
 責任者 物流管理課：山本 豪 TEL：072-962-1431
 担当者 物流管理課：山本 豪 TEL：072-962-1431
- (4) 事業内容
 紙袋及び袋物全般の製造・企画・販売
 雑貨小物の製造・企画・販売
 主要製品：紙・ポリプロピレン完全分別紙袋、ポリプロピレンビニール被せ紙袋、
 レジかご対応バッグ(エコマイラインバッグ)、環境対応買い物袋 等
 ホームページ：<http://www.m-elitebag.co.jp>
- (5) 事業の規模
 主要製品生産量 250 トン/年
 従業員 11 名
 本社/工場延べ床面積 3,976 m²
- (6) 事業年度
 6月～5月

■認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：マツシロ株式会社
 活動：紙袋及び袋物全般の製造・企画・販売

■環境目標とその実績

本社/工場における主要な環境負荷と環境目標及びその実績は次のとおりです。

項目	年度	2013年度		2017年度		2018年度	2019年度
		(基準年)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)	
電力の省エネ (0.393kg-CO ₂ /kwh)	(kg-CO ₂)	25,660.94	19,502.31	20,737.82	19,502.31	19,502.31	
自動車燃料の削減	(kg-CO ₂)	9,815.75	9,619.43	7,647.43	7,656.28	7,656.28	
都市ガス	(kg-CO ₂)	—	—	24.96	—	—	
二酸化炭素排出量合計 (kg-CO ₂)		35,476.69	29,121.74	28,410.21	27,158.59	27,158.59	
可燃廃棄物の削減	(kg/年)	2,880.00	2,793.60	1,860.00	1,872.00	1,872.00	
節水	(m ³ /年)	80.00	64.00	72.00	64.00	64.00	
環境配慮製品の販売促進	(万円/年)	6,192.66	6,811.93	8,991.95	8,979.36	8,979.36	

※有害化学物質の使用禁止は、製品への環境配慮として取り組む

※グリーン調達は、製品への環境配慮及び電力の省エネ、自動車燃料の削減手段として取り組む

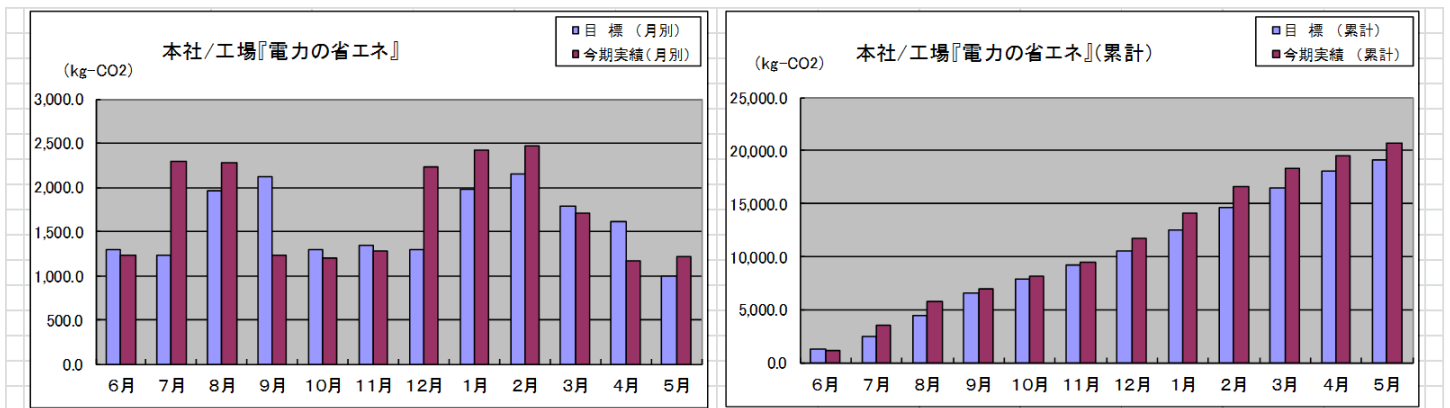
【エコアクション活動板】



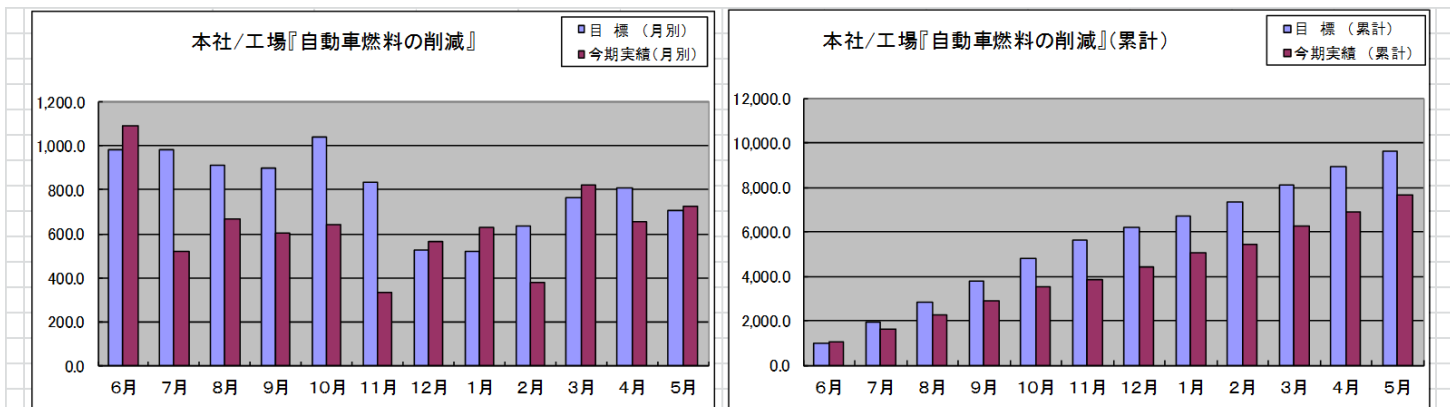
■環境活動の取り組み計画と評価

本社/工場

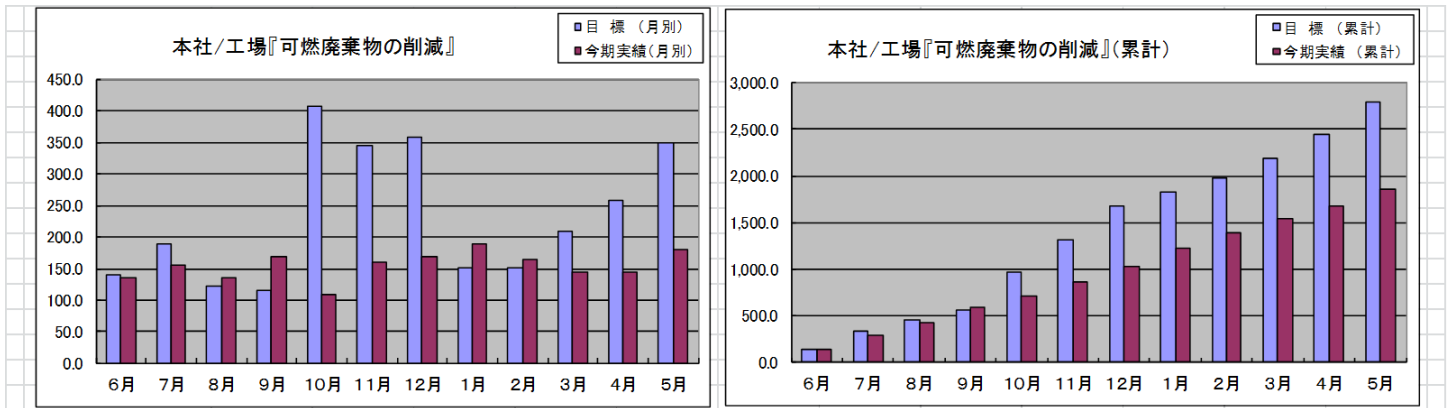
取り組み計画	達成状況	評価 (結果と今後の方向)
①電力の省エネ (基準年度比 76%) ・エアコンを省エネタイプに更新 ・省エネ機器の導入	基準 : 25,660.94kg-CO2 目標 : 19,502.31kg-CO2 実績 : 20,737.82kg-CO2 基準比 : 80.81% 19.19%削減 目標比 : 106.33% 6.33%増加	(目標未達成) 夏冬の冷暖房の使用頻度が多く目標をオーバーしてしまった。 今後もこまめな節電にも注意を払い取り組んでいきます。 目標未達成の為、次年度削減比を76%のままにします



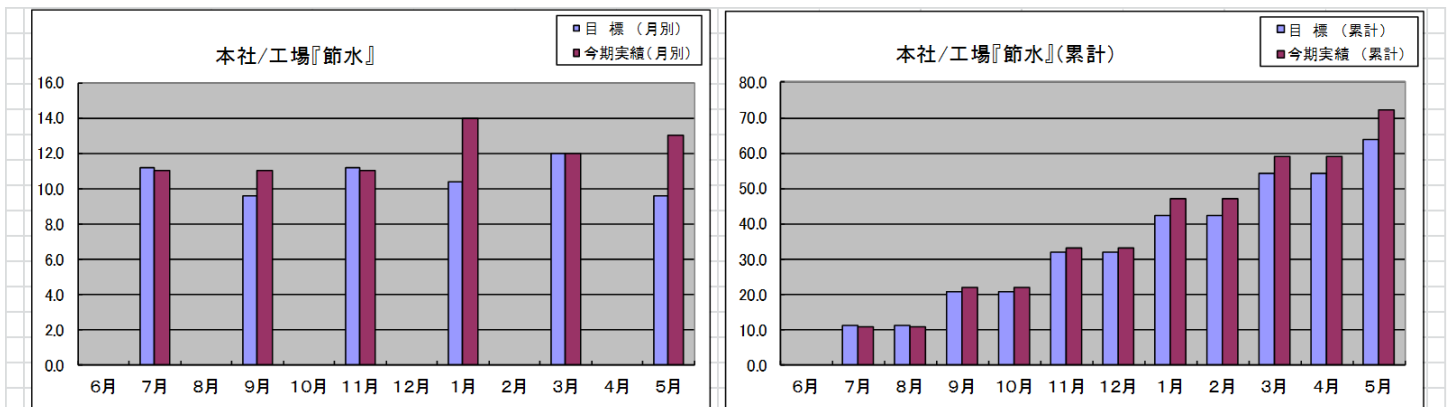
取り組み計画	達成状況	評価 (結果と今後の方向)
②自動車燃料の削減 (基準年度比 98%) ・営業ルート効率化 ・カーナビ導入 ・低燃費車に更新 ・在庫管理と出荷情報の共有⇒加工所への車使用頻度の削減	基準 : 9,815.75kg-CO2 目標 : 9,619.43kg-CO2 実績 : 7,647.43kg-CO2 基準比 : 77.91% 22.09%削減 目標比 : 79.50% 20.50%削減	(目標達成) 普通車を軽に入れ替えたのと出張ルートなど計画的に練り、ガソリンの使用量を抑えたことにより削減出来た。 目標達成の為、次年度削減比を78%にします



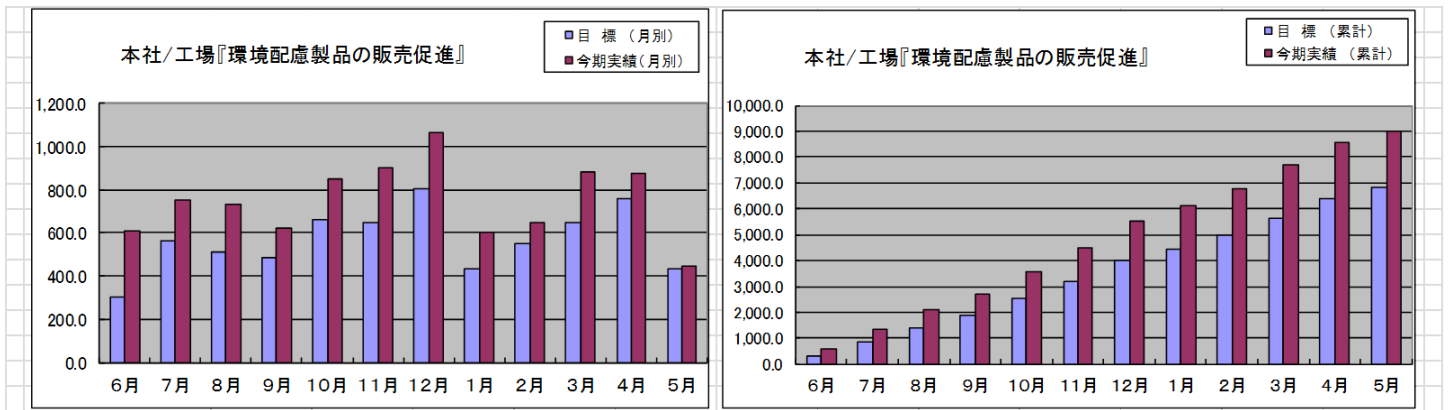
取り組み計画	達成状況	評価 (結果と今後の方向)
③可燃廃棄物の削減 (基準年度比 97%) <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別と削減 ・断裁ミスの削減 ・廃棄製品の再利用 ・端紙の使用 ・ミスコピー及びミスプリントの防止 ・スキャンによる資料保管でペーパーレス化の推進を図る 	基準 : 2,880.00 kg 目標 : 2,793.60 kg 実績 : 1,860.00 kg 基準比 : 64.58% 35.42%削減 目標比 : 66.58% 33.42%削減	(目標達成) 分別+再利用の意識を常に持って取り組んでいきます。 目標を達成したので、次年度削減比を65%にします



取り組み計画	達成状況	評価 (結果と今後の方向)
④節水 (基準年度比 80%) <ul style="list-style-type: none"> ・雨水利用による植木の水やり ・節水弁(バルブ)取付け 	基準 : 80.00 m ³ 目標 : 64.00 m ³ 実績 : 72.00 m ³ 基準比 : 90.00% 10.00%削減 目標比 : 112.50% 12.50%増加	(目標未達成) トイレの回数が増えた為、目標を超えてしまった。 これからも節水意識を持って行動します 目標未達成の為、次年度削減比を80%のままにします



取り組み計画	達成状況	評価（結果と今後の方向）
⑤環境配慮製品の販売促進 （基準年度比 110%） ・エコマーク取得 ・有害化学物質の使用禁止 ・再生紙の使用 ・新商品の開発	基準：6,192.66 万円 目標：6,811.93 万円 実績：8,991.95 万円 基準比：145.20% 45.20%増加 目標比：132.00% 32.00%増加	（目標達成） エコマーク取得準備継続中。 有害物質を含む部材の使用及び購入禁止 産学連携新製品開発及び新規提案による売上アップを図る。 目標達成の為、次年度増加比を 145%にします



【再生紙使用商品】

古紙パルプ配合率 30%以上

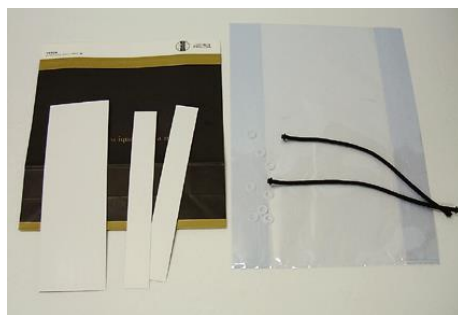


白無地手提げ袋

白無地コーティングバッグ

白無地ビニールカバーバッグ

【紙とポリプロピレンに完全分別可能商品】



【レジかご対応バッグ エコマイラインバッグ】



【環境対応買い物袋 かんたんバッグ】



■環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規	適用される事項	本社/工場
廃棄物処理法	一般廃棄物	○
騒音規制法	製袋機・断裁機	○
容器包装リサイクル法	包装資材商品	○
家電リサイクル法	テレビ・エアコン・冷蔵庫・洗濯機	○廃棄無し
フロン排出抑制法	業務用エアコン	○廃棄無し

環境関連法規制等の順守状況の定期評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。
また、過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。

以上

■代表者による全体の評価と見直し

未達成の電気と節水については、目標達成に向けて不断の努力が必要です。ただ、今夏の猛暑による熱中症を防ぐためには冷房を適切に使用することも必要なため、節電にも限界があるように思います。

今までにない紙袋の開発に向け、近畿大学と大阪芸術大学との産学連携商品企画をしました。近畿大学は文芸学部と経営学部のコラボで防災用紙袋とビニールバッグなどユニークな企画が上がりました。大阪芸術大学は花束バッグやスカーフバッグ、差し込みバッグなど身近で困っていることに視点を置いた企画が上がりました。これらの企画商品をこれから商品化し、新しい市場の開拓を進めていきたいと思ひます。特に防災関係については早急に商品化を進めていきます。

■産学連携商品企画の紹介



(近大) 防紙くん



(近大) B I Yバッグ



(芸大) 花束紙袋